

事業所名: さくら学園保育所

平成27年度
東京都福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)心身の健全な発達を促し、元気な子どもを育てる。 2)豊かな感性を育て創造性が身につくような子どもを育てる。 3)人に対する思いやりを大切にする心を育てる。 4)自主性・協調性の態度が身につくような子どもを育てる。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 心身の調和がとれ、コミュニケーションを大切にしている人材</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 保育の専門職として資質の向上に努めること</p>

調査対象

保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。

調査方法

・調査票と調査項目：東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。
 ・回収方法：回収期限を設定し評価機関への直接郵送。
 ・事業所への報告：自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。

利用者総数

78

共通評価項目による調査対象者数

78

共通評価項目による調査の有効回答者数

46

利用者総数に対する回答者割合(%)

59.0

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が回答の28%、「満足」が44%、「どちらともいえない」17%、「不満」11%であり、「大変満足」「満足」とした割合は選択回答数の72%であった。

総合感想の自由記述では、「いつもありがとうございます。安心して預けられる保育園です。」「見学など園外での活動もいろいろと取り入れていただき、とてもありがたい。」「個々の子供達をよく見て頂き、子供も園に行くのを喜び、有難く感じています。」「いつも笑顔で話しかけて下さる先生ばかりで、子供もほとんどの先生方が大好きだそうです。」等の回答があった。

意見・要望では人員配置や園の方針・姿勢についての意見等があり、保育実施面では夕方のテレビ視聴に関する意見等が見られている。

個別の設問では職員の言葉遣いや態度が適切かどうかを問う問9で「はい」の選択が最も多かった。自由回答が最も多かった設問は問1の食事、問2の戸外遊びを問う設問であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	38	6	1	1
回答者の83%が「はい」を選択している。自由意見では「家ではなかなか食べてくれない食材も調理してあるので、喜んで食べているそうです。」という回答のほか、味付けや量等に関する意見があった。おやつに関してはいくつかの意見があった。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	29	10	6	1
回答者の63%が「はい」を選択している。「散歩の機会や園庭での遊びなど、十分と考えます。」「園庭が狭いなりに散歩などしてい頂いていると思う。」という回答のほか、「園庭がないので外にお散歩程度しか行ってない様子です。」「もっと外遊びを頻繁に行ってほしい。」等の意見があった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	25	6	6	9
回答者の54%が「はい」を選択している。この設問では保護者の急な保育時間の変更依頼に対して「優しく、『大丈夫ですよ』と教えてください、焦っていた気持ちを落ち着かせてくださいました。」という回答がある一方で、「出来るだけ定時に迎えに来てほしいという雰囲気がある。」という回答もあった。延長保育の対応についての意見も寄せられた。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	29	10	5	2
回答者の63%が「はい」を選択している。「職員が少なく、目が行き届いていないと思う。」「2Fへ行く階段が狭いため、やや危ないと思う。」等、見守りや設備についての意見等があった。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	25	16	5	0
回答者の54%が「はい」を選択している。この設問では保護者の就労事情からの行事開催曜日についての意見がいくつかあった。そのほか、保育参観の曜日を選ぶ際の一日の人数枠を「増やして欲しい」という意見もあった。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	27	16	3	0
回答者の59%が「はい」を選択している。自由意見では「その日1日であった些細な出来事から、とてもほめられることができた時やお友達との関わり合いなど、丁寧に説明して下さいます。」という回答のほか、お迎えの時間に担任と会えない場合「なかなか話す機会がない。」という回答等があった。				
7. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	31	10	5	0
回答者の67%が「はい」を選択している。「あまり親身には聞いてくれない。」という意見や「相談に対する返答がない。」といった意見があった。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	35	7	4	0
回答の76%が「はい」を選択している。「たまに大きなわたぼこりを見るので。(※どちらともいえない)」といった回答や、「園庭で遊んだ上履きそのまま教室に入っている。」という指摘があった。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	41	3	2	0
回答者の89%が「はい」を選択している。この設問では「先生の態度は皆素晴らしいと思います。」「先生方は親切で優しいです。」という回答があり、その他では連絡帳に記入された文字についての意見があった。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	9	2	0
回答の76%が「はい」を選択している。この設問では発熱時のお迎え依頼について、「発熱の連絡があり迎えに行くが、帰宅すると下がっている」として柔軟な対応を求める意見があった。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	11	1	3
回答者の67%が「はい」を選択している。この設問では「神経をとがらせてみて下さっていると思います。」という回答のほか、「けがした時のお詫びの言葉より、もっと状況や理由を知りたい。」という意見があった。				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	34	9	3	0
回答者の74%が「はい」を選択している。この設問では子供への声かけについて子供の気持ちを汲んだ声かけがされていないとする意見があった。				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	35	7	1	3
回答者の76%が「はい」を選択している。この設問では「集団での保育なのでプライバシーを保つのは難しいと思う。」「他の人に聞かれない事を人前で話されて嫌な思いがした。」という意見があった。				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	30	8	6	2
回答者の65%が「はい」を選択している。この設問では「なぜこの保育内容にしているのか理由がない。」という意見や「保護者への必要な連絡がされていない。」という意見があった。また、連絡帳が上のクラスはないため「全く分からなく不満。」という意見もあった。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	9	5	3
回答者の63%が「はい」を選択している。この設問では「連絡帳に書いてもスルーされることがある。」という意見や、「回答を得るまで時間がかかる」「回答がない」という旨の意見等があった。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	9	13	5
回答者の41%が「はい」を選択している。この設問では「知っているし、紙が貼ってあるため理解しているが、分かりやすく伝えてもらった」という認識はない。「聞いた事がありません。」という回答があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(0000)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	● あり ○ なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(00)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(000)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○ 非該当

カテゴリー1の講評

実際に見てもらおう事で保護者に園の保育を知ってもらおう事を大切に考えている

利用希望者等への配布用に作成されたリーフレットなどには園の保育を表すスローガンや方針・特色が記載されている。利用者に対してはさくら学園の保育を実際に見てもらおう事で理解をしてもらう事を第一として、現場の保育を通じて方針の浸透を図っている。職員に対しては職員会議やリーダー会議において園長から方針に沿った話をする等して、園の考え方を周知している。

園長、副園長が連携して園の運営を行っている

経営層の役割として、園長は保育実施面と保護者対応、副園長は組織マネジメントや対外調整等を主に担って日々の業務にあたっている。現場における保育士の指導や各クラスの調整などは主任が担当しており、園長、主任等、役職、職務毎の役割は職務分掌に明記されている。

テーマ別の会議を定期的開催して職員間での話し合いを持っている

会議体は事業計画書に明示しており、月2回の定例会議(職員会議)のほか、リーダー層やクラス毎の連絡調整、保育計画の検討、食事、保健の検討といったテーマ別の会議を定期的開催して職員間での話し合いを持っている。最終決定は園長が行っており、決定事項は職員会議等を通じて職員に周知されている。保護者には掲示物などで決定事項を伝えている。

2			カテゴリー2	
2			経営における社会的責任	
			サブカテゴリー1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		○ 非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○ 非該当	
			サブカテゴリー2(2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○ 非該当	
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○ 非該当	
● あり ○ なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○ 非該当	
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○ 非該当	

カテゴリー2の講評

関係機関が開催する人権研修に毎年参加し、園全体に周知して理解と浸透に努めている

就業規則に守秘義務やセクハラ、パワハラ等の禁止事項を条文として定めている。福祉従事者として守るべき規範や倫理等については月2回の職員会議で事例をもとに園長から職員に伝えている。また、関係機関が主催する人権研修には毎年職員を参加させ、職員会議で報告して周知し、理解・浸透に努めている。

ボランティアを積極的に受け入れている

ボランティアの受入れでは27年度は中学校の職場体験3校のほか、ボランティアセンター経由でも1名を受け入れており、担当者を定めて積極的に取り組んでいる。

地域や地域の関係機関と連携している

地域関係団体の園長会には副園長が出席しており、関係団体が主催する園長研修にも参加している。また、区の園長会では役割を持ち、ネットワークの中で連携して地域の共通課題に取り組んでいる。そのほか、町会の会員としての活動や、幼保小連絡協議会等で地域と連携している。

3			カテゴリ-3	
3			サブカテゴリ-1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる			○ 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる			○ 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる			○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している			○ 非該当
カテゴリ-3の講評				
苦情解決制度を保護者に周知している 苦情対応については事業計画書に詳しく明記して職員に周知するとともに、保護者には掲示で苦情解決第三者委員を周知するほか、クラス懇談会などでは苦情制度について伝えている。苦情解決制度を利用した実際の苦情はあまりないが、苦情があった場合は記録ファイルに経過を詳しく記録して対応をしている。				
利用者調査や行事後アンケートの結果を掲示して保護者に周知している 毎年実施している利用者調査(第三者評価)の結果は掲示をして保護者に伝えている。また、運動会や発表会、お別れ会などの行事後にアンケートを実施して集計しており、得られた感想をまとめて保護者向けに掲示している。アンケート結果を踏まえた園の考え方や対応についても今後保護者に周知してゆくと保護者との信頼関係も一層高まると考えられるため、対応することを勧めたい。				
関係団体や区からの情報を園の運営に活かしている 区からの情報は区の園長会や地域関係団体の園長会などの場で収集している。また、地域の保育事業環境に関する情報等は関係団体の園長会などでも収集することができている。地域ニーズや福祉事業の動向等の分析は、就任した理事長・副園長の役割となっており、保育園の新しい姿を構築すべく今後の取組を期待したい。				

カテゴリー4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリー1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		10/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(○○●)		
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **4/4**

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる 評点(0000)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ4の講評

事業計画を職員に配布し、内容を共有している
 事業計画書の冒頭には園の理念と基本的な考え方が示されている。また、全体の保育目標、各組の保育目標のほか、年度の主な行事や安全管理、会議体、職務分掌、苦情対応および担当者等を明記して職員にも配布している。中期的な計画や目指すところなどは今後検討・作成して内外に周知する事が期待される。

各行事で目標と計画を具体的に立て、実施後に振り返って次回の参考にしている
 職員会議の中で毎月のまとめを各クラスから報告して反省した内容を次期に繋げている。行事計画は園長と主任が年間の反省を踏まえ、各職員の職務状況等を考慮して作成している。各行事では目標を立て、個別の計画書を作成して実施しており、実施後は保護者アンケートなどをもとに自己反省を行って次回実施時の参考にしている。

感染症対策など、安全性の向上に努めている
 感染症対策ではマニュアルを整備し、区のサーベイランス情報を職員に周知するとともに、感染症の発症状況等は掲示で保護者に伝えている。防災等については今後も様々な想定をして対策し、対応手順を整えてゆく事が望まれる。

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			6/8	
評価項目1			事業所にとって必要な人材構成にしている	
			評点(000)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる		○ 非該当	
評価項目2			職員の質の向上に取り組んでいる	
			評点(000●●)	
評価	標準項目			
○ あり ● なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		○ 非該当	
○ あり ● なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		○ 非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			7/7	
評価項目1			職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	
			評点(000)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○ 非該当	

評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ5の講評		
<p>職場のコミュニケーションを大切に考えて人材の採用と配置をしている 「心身の調和がとれ、コミュニケーションを大切にしている人材」を期待する人材像として、採用ではコミュニケーション力等人物重視で行っている。人員配置は職員の意向を聞き取り、現状の職員構成等を考慮して決定している。今年度は組織内部のコミュニケーション強化を図っており、「子ども・保護者と職員が共に心通う保育園」を目指している。</p> <p>組織全体や職員個々の成長に必要な研修を抽出して職員に参加してもらっている 外部研修については関連団体主催の研修予定などから園の人材育成に必要な研修をピックアップして全体の受講計画を立てており、職員の経験や業務習熟度を加味して受講してもらっている。外部研修に参加する際は研修費用を全額補助し、シフトの調整をしている。園内では外部講師を招聘して研修を行うこともしており、園として必要なテーマで適宜の開催をしている。</p> <p>一人ひとりの気づきが各現場で活かされている 保育実施面は主任が統括し現場を任せられており、一人ひとりの気づきなどが各クラスなど現場業務の中で活かされている。職員自己評価からは、行事や係業務などが職員に任せられる事で、責任感ややりがいの醸成にもつながっているようであった。</p>		

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

新理事長就任に伴い、園の課題を抽出し改善に着手した

理事長兼副園長、園長の運営体制となり、この1年は園内のコミュニケーションを高める工夫をした。また、新理事長の就任後に園の課題を抽出し、今年度は情報の保護などの管理強化や外部への情報提供に関する改善策を実施した。今後の課題も明確になりつつあり、改善策を検討する状況に至っている。

サブカテゴリー2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

園内のコミュニケーション強化に取り組んでいる

内部におけるコミュニケーションの強化を図っている。コミュニケーション力を重視した人材採用を行っているほか、園長以下、職員間の懇親会が開始される等、園全体でコミュニケーションの重要性を意識し、具体的なアクションに繋げている。

サブカテゴリー3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

情報の保護を強化し、保育実施面では新たな取組を開始した

・情報の保護では27年度に電子データの保護対策を強化した。また、個人情報の保護についてはマイナンバーの導入に伴い、特定個人情報の取り扱い規程を新たに作成して対応した。
 ・保育実施面では27年度から縦割り保育を開始した。この事に伴い、保育室の間仕切りを切り直してOPENなスペースをつくる等、設備面の変更も実施した。
 ・昨年度以降、保育業務における効率化を図っており、27年度も継続して改善の検討が行われている。

サブカテゴリ4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

事務手順を見直し明確化した

会計・経理の事務については実施者と責任者の業務を切り分ける等を行って作業手順を明確化し、処理効率の向上やミスの防止策を施した。

サブカテゴリ5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者の意見を直接聞く事に努めている

新園長就任後は園長が保護者からの話を直接積極的に聞く事に努めている。また、園内を園長が定期的に巡回して、業務改善や指導を直接行う機会を設けている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3, 6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(0000)
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している ○ 非該当
	● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○ 非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	リーフレットやウェブページで園概要などの情報を伝えている 手づくりのリーフレットを園と一時預かり保育のそれぞれで作成している。園のリーフレットでは園の概要のほか、保育方針や一日の生活、主な年間行事等を案内しており、世代間交流など園の特色も簡単に案内がされている。ただし、入園希望者に説明が十分でない部分も見受けられるためこの点は配慮を望みたい。一時預かり保育では申し込み方法や持ち物などがわかりやすく説明されている。ウェブページは27年度から情報の更新を適宜行うようにしており、写真と文章で保護者や地域向けに園行事などのタイムリーな情報提供がされている。	
	利用希望者等の目に触れやすい場所で園の情報を提供している リーフレットは区役所や児童館など地域の関連施設に置いているため区民が情報を手にすることができる。また、地域関係機関の園長会主催が主催する入園相談会に参加しており、園のブースで園のしおりや行事の写真などを用意してに域に向けて情報を提供している。	
	見学希望者には保育内容や一日の過ごし方を案内している 見学の希望は多く、対応は主任もしくは広場担当が行っている。案内時は保育室や保育内容のほか、一日の過ごし方などを伝えている。最後に質問を聞くようにしており、延長保育は満1歳から受け入れを行っている事も伝えるようにしているが、延長保育の受け入れ等は保護者の就労に関わる重要な事項であるため、誤解が生じないように十分な配慮と工夫をして情報提供してゆく事が期待される。	
	サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点(000)
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している ○ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p> 入園前に説明会を行って準備物などの情報を保護者に伝えている 入園時に配布するしおり「ご案内」には、園概要や個人情報保護、入園にあたっての約束事、デイリープログラム、保健、食事などの情報が記載されており、入園説明会時に配布して説明をしている。入園説明会は3月の第二土曜日に行っており、説明会時は全体会後にクラスで説明機会を設け、慣れ保育や持ち物などについての説明もその時に行っている。 </p> <p> 家庭への情報提供や子供・家庭の情報収集を早めに行うことを期待したい 保護者の記入が必要な書類は入園までに持参してもらっている。個別面談は実施しておらず、入園時の保護者の意向等は面談記録としては残していないが、入園時に得られた情報はクラス会議録や職員会議録に残している。スムーズな通園に繋げるために家庭への情報提供や家庭状況等の情報収集は早めに行ってゆく事を期待したい。 </p> <p> 入園当初は保護者と子供の不安軽減に努めている 慣れ保育は子供と保護者の状況を見て、保護者事情に対応できるときは対応している。入園当初の保護者の不安解消のために、話を聞く事や子供の様子を詳しく伝える事を心がけている。子供については職員との交わりを大切にして不安を減じる事に取り組んでおり、シフトの配慮のほか、午前のおやつを提供する等の工夫をしている。 </p>		
サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
<p> 子供一人ひとりの状況を詳しく記録し、各計画を立案している 子供一人ひとりの家庭や生活の状況は児童票や食事状況記録などに記載されている。児童票の記録は個々の子供の状況が集約され丁寧で細かな記録となっており、担任が変更となっても読めば理解できる内容となっている。 年齢毎や個別の指導計画は保育課程に基づき、発達に沿った養護と教育の計画が作成されており、児童票等の記録を確認して子供の状況を把握したうえで作成されている。また、個別の月案は計画と反省及び課題が記録され、次期へのつながりのある内容で作成されている。 </p> <p> 保護者に計画の内容を伝えることに配慮している 保護者に対する計画の周知では、指導計画やデイリープログラムを各クラスに掲示しているほか、懇談会において指導計画の概要説明やデイリープログラムの説明などを行っている。乳児の懇談会は年3、4回実施しているが、懇談会に参加していない家庭には個別に知らせたり、年2回の個人面談や保育参観の機会に周知する等、細かな配慮をして計画を周知している。 </p> <p> クラス会議や職員会議等で子供や家庭に関する情報の共有をしている 月案や児童票、クラス運営状況等の情報はクラス会議や職員会議の中で共有される。また、日々の状況については「伝達ノート」に遅番時の情報や保護者からの伝達事項などを書き入れ、共有するようにしている。 </p>		

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 7/7

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリ-5の講評

子供のプライバシー保護についての配慮がされている
 ウェブページへの情報掲載に関しては個別に掲載の承諾を取っている。また、園内に子供の作品を掲示する時は、作成した子供の名前が見えないよう配慮する事を方針としている。保育の現場ではトイレの目隠しやドアの設置、夏のプール実施時は周囲から見えないよう目隠しのシートを張る事、着替えの時もカーテンを引くなどの配慮がされている。

個を否定しない事を基本的なスタンスとして現場での指導がされている
 入園のしおりの「お約束」の冒頭には人権尊重の姿勢が掲げられており、代々引き継がれる園の基本的な姿勢として職員に受け継がれている。人権研修には毎年職員が参加している。人権を大切にしてい個を否定しない事を基本的なスタンスとして、現場では子供のやる気をなくすような声かけや支援はしないよう指導がされており、例えば、叱り方が厳しい時などは主任保育士から注意をする等、職員個々の保育観を尊重しつつ必要に応じた助言がされる体制となっている。

子供の気持ちを傷つけるような言動が無いよう、職員間で相互確認がされている
 園長は園内の様子を時折見に戻ったり、泣き声が長く続く様子を見たり、と子供と職員の状態を把握するようにしている。また、職員間でも気になることがあると伝えあうようにしている等、子供に対する職員の言動については園長と保育士、主任と保育士、職員間で相互のチェックがされている。

サブカテゴリ6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

8/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(○●●)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
○ あり ● なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
○ あり ● なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(○○●)

評価	標準項目	
○ あり ● なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(○○○○○)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○ 非該当

サブカテゴリ6の講評

業務の基本事項の明確化、標準化が望まれる

保健など基本的事項の一部については厚労省のガイドライン等、市販の刊行物を参考資料として活用している。防災や保育業務に関する手引書類が作成されていないため、基本事項や手順の明確化を図り、職員間で共有する事が望まれる。

職員の意見を聴き取り業務改善を進め、職員間で話し合っ向上を図っている

業務の見直しを実施している最中である。職員から意見が上がり、昨年度から業務の簡略化などを実施しており、今後も効率化を図ってゆきたい意向がある。見直しはリーダー会議で話し合われているが、その際は職員からの意見も聞き、その内容を踏まえて検討しており、最終的に園長の承認の上で決定される。また保育の現場では職員各自が工夫してアイデアをとり入れたり、職員間で話し合い保育環境の検討などがされている。

外部の研修に積極的に参加して園内での情報共有を図っている

外部研修は年間計画の中で、人権やメンタルヘルス等のほか、例えば保育実施面であればリズム、食育等、保健関係では衛生、歯科講習、感染症予防、衛生環境、職階に応じた研修であればリーダーシップや中堅、新任研修等の研修に職員が参加している。研修実施後は各参加者がノートに手書きで内容と感想を記入して報告し、全体での共有を図っている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 37/37
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(00000)</p>	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している ○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している ○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ○ 非該当
評価項目1の講評	
<p>子供の自主性を引き出す環境の設定が各クラスで工夫されている</p> <p>日常の保育の中では年齢や発達の差を考慮して、子供が主体的に行動できるよう配慮している。発達に応じ自分で行えるような物的環境づくりやそのきっかけをつくるための設定して興味を喚起し、声かけをする等している。</p> <p>配慮が必要な子供の保育にあたる体制がある</p> <p>配慮が必要な子供の保育に関しては、年3回、巡回相談員から具体的な対応方法などを担任と主任が学んでおり、その内容を職員会議やクラス会議の場で伝達し園全体で共有する事に取り組んでいる。専門家の意見を聞き保育にあたる体制があり、保護者からの相談にも対応が可能である。</p> <p>子供同士のトラブルについての対応方法が園として統一されている</p> <p>子供同士のトラブルについては、言葉で伝えられる子であれば双方の言い分をよく聞いて解決に導く事に留意している。大人の主観で決めつけないことなどを基本として主任から各職員に対応方法の指導をしており、子供同士の喧嘩やトラブルへの対応について園の考え方が統一されている。</p>	
<p>2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(0000)</p>	
評価	標準項目
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している ○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている ○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している ○ 非該当
● あり ○ なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている ○ 非該当

評価項目2の講評

子供の発達について保護者に伝え、個々に合わせて生活習慣の支援をしている

生活習慣の支援については個人面談やクラス懇談会などで子供の発達について保護者に伝え、個々の状況に応じて行っている。0歳児のトイレトレーニングは保育の中で丁寧な働きかけで対応されていた。食事の介助や離乳食の対応は園の様子を保護者に伝え、また、家での様子を聞き、連絡し合って個別に進めている。

子供の状況に応じた睡眠の支援をしている

保健室があり、具合の悪い子が横になれる環境がある。午睡は0、1歳児であれば生活リズムに応じて午前寝をする等、家庭の状況に合わせている。年長児は3月から小学校への就学を見据えて午睡をなくす配慮をしている。午睡時は室温の配慮やあまり暗くならないカーテンにするなどして環境を整えている。

送迎時は極力担任が保護者と直接会話して対応する事にしている

お迎えの時は、「さようなら」だけでなく、一言その日の子供の様子やほめ言葉を添えるよう留意している。日常のやり取りは連絡帳で行うが、直接話したほうが良いときは担任が残るなどの対応をしている。また、送迎時は時間の許す限り担任が対応する事にしている。言葉でその日の様子を伝える努力は信頼関係にもつながるよい取り組みである。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当

評価項目3の講評

異年齢保育の中で、また、集団の中で主体的な行動ができるよう支援している

朝集会では歌や体操を行っている。また、子供には日付と天気を皆の前で発表してもらおう等、集団の中で行動できるような場面も作っている。また、異年齢保育となり、あそび等活動の中で大きな子と小さな子が関わる時間が持てている。異年齢保育を実施した事で、小さな子は言葉の引き出しが増えたり、大きな子は年下の子の世話をする姿なども見られている。

夕方の保育では好きな遊びを選択して遊べる環境づくりをしている

園庭は広くはないが砂場や雲梯が設置されており、縄跳びや砂遊び等身体を動かしたり、集中して遊べる環境がある。夕方の保育では、園庭で遊んだり、保育室にじゅうたんを敷き、お絵かきやブロック、おもちゃ遊び等のコーナーを作って、園庭や室内で好きな遊びを選択できるようにしている。

近隣の環境を把握し、季節の移り変わりを感じたり、自然に触れる機会をつくっている

よく行く公園の「お散歩マップ」を作成している。公園や自然遊歩道の散歩など外出時にはザリガニ釣りをしたり、メダカをすくってきて観察をするなど、自然に触れる機会を作っており、地域の状況をよく把握して子供たちに季節の移り変わりや自然を感じてもらっている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目4の講評

子供が楽しめる行事や、やり遂げた達成感を感じられる行事を実施している

行事は春と秋の遠足、お別れ遠足、卒園児を送る会、高齢者施設への訪問、観劇など外に出かける行事も多い。運動会や発表会などはやり遂げた喜びを子供たちに感じてもらうよう取り組んでいる。組み体操などレベルの高い種目も取り入れているが、頑張ることで「ほめてもらおう」など、目当てを持たせて取り組んでいる。

地域との連携の中で、地域に住まう様々な人との交流がある

近所のお寺でタケノコ堀りをさせてもらう、夏のお祭りに参加するなど、地域との交流をふんだんに行事に取り入れており、地域の中で保育所が認知されていることがわかる。また、高齢者施設2施設への訪問も行っている。高齢者との触れ合う機会は園児にとっても貴重な経験となっているものと思われた。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○ 非該当

評価項目5の講評

より一層子供が落ち着いてくつろげる環境づくりを推進する事を期待したい

15時45分からは0～3歳児、3～5歳児が合同の保育となり、16時50分からは全クラス合同の保育となる。18時15分からの延長保育は小さい子もいないため一時保育室で実施している。遅い時間帯の環境は、小さな子がいればごろんとする場所をつくる等している。人数が多い時間はテレビ視聴をすることもあったが、この件については保護者からの意見もあり、引き続き検討をしている最中である。今後も場所や保育する人数の兼ね合いや遅番職員の勤務時間帯の設定を検討する等で、子供が落ち着いてくつろげる環境づくりを推進する事を期待したい。

引継ぎ事項はノートで確実に伝達するよう留意しているが課題もある

引継ぎはノートで確実に伝達するよう留意している。記入者を定めて引き継ぎ事項を記録しているが、記入漏れもあるようである。情報の伝達・共有については課題として認識しているため、より確実に情報を共有するための方法を確立する事を期待したい。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○ 非該当

評価項目6の講評

大勢で過ごす食事の時間でも子供たちが落ち着いて食事をすることができている

給食の時間は0、1歳児と一時保育児、2歳児～4歳児までと一緒に食事の時間を過ごしている。0、1歳児では年齢別にテーブルを分け食事をしており、落ち着いて配膳を待つ事ができている。2歳児～4歳児では約50人の子供が同じ空間で食事をしたが、当番の配ぜんを待つ子供たちはテーブル毎におしゃべりなどして落ち着いて待つ事ができている。子供は必要なことを言葉で伝えたり、職員のいうことも理解して行動できている。

食事が楽しみとなるよう行事食等も工夫して、おいしい給食の提供に取り組んでいる

毎月の食事検討会議ではクラス毎に食べにくかったメニューやクラスの喫食状況等を報告して、おいしい給食の提供に取り組んでいる。行事食では季節の行事にちなんで工夫した献立を提供し、また、年に何度かはセレクトメニューを実施して、好きなものを選んで食べる機会をつくる等、子供が食事を楽しく食べられるような工夫と配慮をしている。献立は旬のものを極力取り入れる工夫をしており、出汁は天然だしを使い、子供には出汁の飲み比べ(味見)などをしてもらう等、素材を大切に優しい味付けの献立の工夫をしている。

栽培や調理手伝い、収穫して食べる事を通じて食への関心を高めている

食育ではその日の献立の栄養素を栄養士と考えながら色別に掲示したり、ピーマンやゴーヤ、ミニトマト、枝豆、オクラなどの栽培や、トウモロコシの皮むきや枝豆のさやとり、煮干しのはらわたとりなどの調理手伝いを行っている。栽培保育では当番の子供が午睡前に水やりをしたり、収穫した野菜を食材に取り入れる等をしており、野菜を育て、それを食べるまでの体験を通じて、食に対するの興味や関心を高めている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている		○ 非該当
評価項目7の講評			
<p>けがや病気を防止するための支援を各部門で協力して行っている</p> <p>保育士からは遊びの前に子供たちに対し、入ってはいけない場所等の注意事項を周知している。また、手洗い指導などは調理部門が担当して指導をしている。主任からは感染症が増えた時に朝礼で注意喚起をしたり、衛生面の留意点を伝える等して職員の保健衛生に関する知識やスキルを高める事に注意を払っている。</p> <p>園医と連携して子供の体調管理をしている</p> <p>医務室があり、子供の体調がすぐれない時は医務室で休ませ、主任や担任が付き添って親の迎えを待つ事にしている。園医は毎月来訪しており、来訪時に子供の健康状態について相談するとともに、地域の感染症状況などの情報を得た時は職員や保護者に周知している。</p> <p>毎月の園だよりや保健ボードへの掲示で保護者に感染症等の保健情報を伝えている</p> <p>保健だよりは調査時点で発行していなかったが、保健に関する情報は毎月発行する園だよりに欄を設けて保護者に伝えている。建物の1階には保健ボードを設置し、園全体、各クラスの感染状況を周知している。保健ボードに日付を入れていつの時点での情報がわかるため、休んでいても状況を理解しやすい。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○ 非該当

評価項目8の講評

個人面談で生活習慣など子育てについて話し合い、家庭とともに保育を進めている

延長保育時は急な延長の依頼にも快く対応する事を心がけている。保護者との個人面談はクラスにより実施月が変わることもあるが、年2回、6月、9月などに実施している。面談では例えば、2歳児クラスであればトイレトレーニングやおむつはずし、箸の使い方など保護者と話し合って進めている。

クラス懇談会では子供の発達や育児について話し合いの時間を持っている

クラス懇談会ではその時のクラスの状況や発達の状況を保護者に話している。またテーマを決めて保護者同士で話し合うなどの工夫をして、子供の発達や育児について共通認識を得る事に取り組んでいる。懇談会は保護者同士の交流機会にもなっているが、その他の交流機会としては運動会や遠足などもある。

保護者への伝達事項はクラス別の掲示板にわかりやすく掲示をする工夫がされている

保護者向けの情報としては毎月の園だよりがある。園だよりでは家庭への連絡事項や当月の予定のほか、食育のトピックス、保健情報、その月の誕生日の子供の名前紹介などがされている。そのほか、園内の廊下にはクラス別に決まった色(クラスカラー)の掲示板を用意し、各クラスの伝達事項や連絡事項を掲示しており、保護者への情報伝達がしやすいよう工夫されている。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○ 非該当

評価項目9の講評

子育て広場や一時預かり等地域の在宅子育て家庭向けの支援を実施している

地域子育て支援の一環として子育て広場「のぞみ」や、一時預かりの「にじ組」を実施している。一時預かりは8:45～16:45までの保育時間で受け入れており、登録後、利用日の一か月前から5日前までに予約をする事で利用ができる。登園後は自由遊びや歌や体操、食事等、在園児と過ごすなど、集団の生活を体験できるようにしている。

子育て広場は地域在住保護者が一息ついたり子育ての相談をする場として運営している

子育て広場「のぞみ」や一時預かりなどの地域子育て支援事業はウェブページでの案内のほか、区の広報もしている。子育て広場はスペースの関係もあるが、地域の保護者からの相談も多く今後も継続していく意向があり、周知を図っていく事を検討している。子育て広場の運営については地域ニーズの把握や内容の検討なども行い、継続してゆかれることを期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている
タイトル①	地域のさまざまな人とふれあう機会が豊富にある	
内容①	高齢者との交流は積極的に行われており、特別養護老人ホーム、養護老人ホームとの交流があるほか、近隣の方々を招いて園児とともに歌ったり一緒に遊んだりして過ごす「ほのぼの会」を長年に亘り継続して実施している。環境学習会ではゴミ収集車の内部格を見る事ができる「スケルトン号」が保育園に来てごみの収集体験なども行っている。また、勤労感謝の日には出入りの業者に園児からプレゼントを送っている。そのお礼なども園に届いており、日常の中で職員以外の人との交流がある。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-2-1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる
タイトル②	安全性を高める事に取り組んでいる	
内容②	アレルギー対応ではトレイを別にしてトレイには名前とアレルギー食材名を書いた札を載せわかりやすいよう工夫している。提供時は「アレルギー除去なしです」と担任だけでなく、その場にいる職員が確認して万一の誤食がないように注意をしている。防災では、毎月の避難訓練で毎回細かな想定をして実施後に詳しく内容を振り返っており、今後改善すべき事項を検討している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域で長年運営してきた保育園であり、地域との連携が保たれている
	内容	昭和29年の開設以降、地域の中で運営されている保育園であり、その歴史の中で地域との連携が保たれている。地域の方との交流行事「ほのぼの会」は長年継続して実施されている催しであり、また、地震の時は地域の方の避難を自然に受け入れる等、長年地域で運営してきた園である事から地域との結びつきも強く、卒園児との交流や地域の高齢者との交流も盛んである。
2	タイトル	日本の伝統行事などを大切にしており、躰などをおそろかにせず支援している
	内容	創立記念日に紅白饅頭、卒園式に赤飯など、晴れの日には祝いの菓子等を園から家庭に渡している。近年、祝い事にふさわしい品を関係者に配るという風習が廃れてきているが、日本人が古来より大切にしていたしきたりを伝えられるのも保育所ならではの事ではないかと思われた。また、衣服の着脱については脱ぎっぱなしにしないよう子供たちに注意し畳み方を教えたり、箸の使い方は調理部門が担当して豆を使って練習し身につける等、保育の中で躰もきちんと行うようになっている。
3	タイトル	職員間でのコミュニケーションを重視し、課題の解決に動き出している
	内容	理事長が副園長を兼務し、園長とともに運営をしてゆく体制となり、「コミュニケーションの強化」などを重点課題として園運営をしている。職員間のコミュニケーションをとり、現場では仕事を任せる事で意欲を高めており、1年程前からは毎月懇親会を実施して園長と職員が非公式の場で交流をしている。懇親会には毎回職員の大多数が自主的に参加しており、その中で、自然なコミュニケーションが生まれている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者の意見も参考として園の保育を見つめ直し、着実に一つひとつの課題をクリアして欲しい
	内容	今回の利用者調査では保護者からさまざまな意見が得られている。これらの意見は保護者意向やニーズを把握するための参考資料として活用して必要に応じた改善につなげる事を期待したい。また、新体制となった事を契機に、園の保育を見つめ直し、着実に一つひとつの課題をクリアして欲しい。
2	タイトル	園の情報をわかりやすく保護者に周知する配慮が望まれる
	内容	保育園や実施する一時預かり保育についてそれぞれリーフレットを作成している。また、ウェブページなどで情報を公表している。延長保育は1歳以上児から行う事などサービス選択の際に重要となる情報は、情報を提供する媒体にわかりやすく明記する事や事前の説明を漏れなく行う事等で入園後のミスマッチがないよう配慮する事を望みたい。
3	タイトル	安全性をさらに高めるために、防災等の業務手順を明確化する事を期待したい
	内容	毎月の避難訓練は力を入れて取り組んでいるところでもあり、安全性を高めるための工夫などもされているが、地震などの防災関連等のマニュアル化はあまり進展していない状況がある。防犯や地震など防災については安全性確保の面からもマニュアルを早めに作成してほしいところであり、防災であれば避難想定等もいつでも対応できるよう具体的なものにしていくことが望まれる。